

だ美  
よ術  
り館

contents

水木しげるワールド	[2~3]
岡倉天心『茶の本』出版百周年記念特別展示	[4~5]
福井県立美術館 ボランティアの会	[6]
所蔵品によるテーマ展	[7]
移動美術館 小浜・敦賀展	[7]
お知らせ	[8]
貸館情報	[8]
日本まんなか共和国	[8]







ニューギニアの精霊 (1994)



セノイ族の精霊像

# 水木しげる博士

「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔くん」「河童の三平」などで知られる漫画家・水木しげるの作品とその人生をドキュメンタリー風に構成した展覧会。妖怪漫画ばかりでなく、戦記漫画やこれまで未公開となっていた原画の初公開など、自伝やエッセイに至るまで非常に幅広い作品を紹介します。「妖怪研究家」としても名高い水木が世界中から集めた民族資料なども展示し、50年以上におよぶ水木しげる特有の世界を体験していただく「現実と空想の展覧会」です。



鬼太郎の家 [円陣の家]

©水木プロ



平成 18 年  
7/28(金)～8/27(日)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
毎週金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)  
観覧料：一般800円、大高生500円、中小生300円  
(30名以上の団体は2割引)

主催：福井県立美術館、朝日新聞社／協力：水木プロダクション、水木しげる記念館、フォルスタッフ／協賛：株式会社やのまん

## 関連企画

### ■講演会

演題：「世界痛快妖怪航海記」  
講師：荒俣 宏(作家・博物学者) 人魂の天ぶら  
場所：当館講堂  
日時：8月5日(土) 午後2時～午後3時30分  
定員：150名  
※観覧券が必要です。  
※7月25日(火)から電話で受け付けます(先着順)。

### ■映画上映会

「ゲゲゲの鬼太郎」  
場所：当館講堂  
日時：7月30日(日)、8月6日(日) 午後2時～  
※観覧券が必要です。

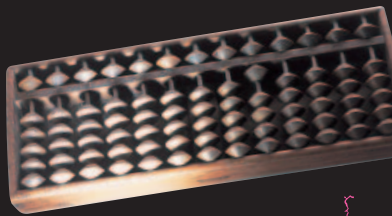
### ■担当学芸員によるギャラリー・トーク

場所：展覧会場  
日時：8月20日(日)、8月27日(日) 午後2時～  
※観覧券が必要です。

### ■問合わせ

福井県立美術館  
〒910-0017 福井市文京3丁目16-1  
TEL (0776) 25-0452 FAX (0776) 25-0459  
<http://info.pref.fukui.jp/bunka/bijutukan/bunka1.html>  
担当学芸員：西村 直樹





ねずみ男愛用のそろばん



三大スター夢の競演 妖怪総進撃 (1985)

水木しげるは一九二二年（大正十一年）、

鳥取県境港市の廻船問屋に生まれました。

大食漢で自由奔放なガキ大将だった少年

時代、近所に住む語り部の老婆「のんのん

ばあ」から不思議な話を聞いて、死後の世

界や妖怪に興味を持ち始めました。

一九四三年、太平洋戦争に召集されて南

方戦線に赴き、ラバウルで片腕を失うほど

の重傷を負いながらも奇跡的に帰国します。

復員後は職や住まいを転々とし、神戸でア

パートを経営するも、生活は苦しく、紙芝

居や貸本漫画を描いてわずかなお金を稼

いでいました。一九六四年、『ガロ』創刊号

で漫画家として雑誌デビューし、一九六五

年には「テレビくん」で講談社児童漫画賞

を受賞。以後、「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔く

ん」「河童の三平」など次々とヒットをと

ばし、ユーモアに裏打ちされた妖怪漫画の

第一人者となりました。二〇〇三年初春に

は故郷に「水木しげる記念館」が開館、そ

のユニークな人柄や人生観が、老若男女を

問わず幅広い共感を呼んでいます。

この展覧会は、水木プロダクションと水

木しげる記念館の全面的な協力で、かつて

ない規模と趣向で水木しげるの「人と作品」

の魅力を解き明かそうとするものです。五

十年におよぶ漫画家としての仕事だけで

なく、少年時代を描いた絵本から、水木氏

の特異な感性を物語る妖怪コレクション

に至るまでを公開し、水木しげるの実像に

迫る試みです。



鬼太郎の下駄



バナナを食べる水木夫妻 (1995)



円卓を囲む鬼太郎一家 (1993)



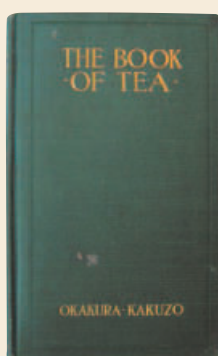
人生絵巻【部分】(2004)

## 岡倉天心『茶の本』 出版百周年記念特別展示

平成18年 **9/5(火)～9/30(土)**

本年は岡倉天心が『茶の本』を出版してちょうど100年目に当たります。福井県は、岡倉天心ゆかりの土地であることから、これを記念していくつかの事業を行う予定です。またこの記念事業の一環として、県立美術館では、「岡倉天心『茶の本』出版百周年記念特別展示」を開催します。

本展では、館蔵品から『茶の本』初版本や天心書簡、天心にゆかりの深い作家たちの作品等約30点を展示し、同時に館外から、平櫛田中作「天心先生像」(木彫)、支那旅行日誌、天心所用の茶道具類、天心着用の羽織・袴、各国語に訳された『茶の本』など約30点を借用し、総数約60点で『茶の本』の魅力を中心に、天心の業績や思想を紹介いたします。



■岡倉天心著『茶の本』初版本  
THE BOOK OF TEA  
1906(明治39)年、ニューヨークのフォックス・ダフィールド社から初版出版。  
福井県立美術館蔵

近代日本画の先駆的指導者岡倉天心は、岡倉勲右衛門の次男として1862(文久2)年横浜に生まれました。福井藩の下級武士であった父は、藩命を受けて横浜で「石川屋」を名乗り越前特産品など商っていたのでした。天心は幼名を角蔵(覚蔵)といい、早くから英語と漢字を習得していたといわれます。13歳で東京開成学校(のち東京大学と改称)に入学し、在学中にアーネスト・フェノロサに強い感化を受けました。卒業後は文部省のエリート官僚として働きながら、フェノロサと共に日本の古美術の発掘や保存に情熱を捧げると共に、新しい日本画の創造を提唱します。1885(明治18)年には、フェノロサ、狩野芳崖らと共に美術学校創立を目的とした図画取調掛の委員になり、1887(明治20)年には東京美術学校が創立されます。さらに1889(明治22)年には、帝国博物館理事および美術部長に就任し、翌年には東京美術学校の2代目校長となるなど、若干20代にしてまさに日本の美術界の頂点に立ちます。

しかし、1898(明治31)年には天心排斥運動により美術学校を辞職。これに殉じた橋本雅邦、横山大観、菱田春草ら26名の正員と共に東京・谷中に日本美術院を立ち上げました。最初その活動が世間から注目されたものの、美術院の活動はすぐに財政難などにより低迷し、1904(明治37)年には大観、春草、紫水らを伴って、この低迷からの脱却を目指し渡米します。またこの頃より請われてアメリカ・ボストン美術館の東洋美術部門の責任者としての仕事に就きますが、アメリカでの生活に多くの時間が割かれるようになると、院の活動はますます衰微します。このような状況の中で1906(明治39)年には美術院を茨城県五浦(いづら)に移して再起を図りましたが、その努力は実らぬまま1913(大正2)年に亡くなりました。



『茶の本』は1904年の秋頃（在米中）から構想され、1905年初春にかけて起稿され、天心が美術院を五浦に移した1906（明治39）年にニューヨークで出版された英文の本です。『茶の本』は『東洋の理想』『日本の覚醒』と並んで岡倉天心の代表的著作であるだけでなく、近代日本の最初期に英語で日本の文化を世界に紹介した、日本を代表する重要な書籍といえます。また『茶の本』が、初版以来世界中で多くの言語に翻訳され出版されたことから分かるように、その内容は深い思想と魅力にあふれています。

\* \* \* \* \*

『茶の本』の全体の構成は、第1章「人情の碗」、第2章「茶の流派」、第3章「道教と禅道」、第4章「茶室」、第5章「芸術鑑賞」、第6章「花」、第7章「茶の宗匠たち」の7章に分かれ、西欧に向けて日本文化の特色を説明しています。

【第1章】では、まず茶の歴史や概説をして、東洋と西洋のお互いの無理解を挙げ、20世紀初頭の今、東洋の文化を西洋に紹介することの意義を語っています。「茶の哲学は倫理と宗教にむすびついていて、人間と自然に関するわれわれの全見解を表現している」と茶の本質を説いています。

【第2章】では、まず中国における茶の流派や歴史について解説し、陸羽の「茶経」の思想についても触れます。そして茶が日本に入り、飲む形式の理想化以上の生の術の宗教になり、日本の茶の湯に茶の理想の頂点をみると主張し、最後に「その全ての背後には微妙な哲理がひそんでいた。茶道は変装した道教であった」と締めくくっています。

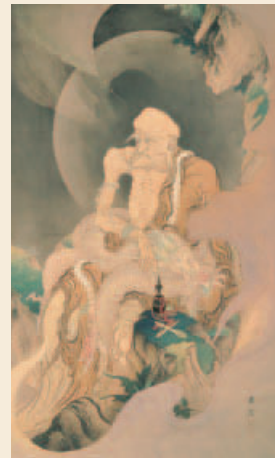
【第3章】では、茶を支えている哲学すなわち老荘思想や道教、禅の考え方が紹介されています。茶は東洋文明が到達した最高の哲学、世界観の実践であると主張します。この章の最後の「茶道の理念はことごとく、暮らしのごく瑣末な出来事の中に偉大さを見出すという禅の考え方に由来する。道教によって美学的理念の基礎が築かれ、禅によってそれが具体化されたのである」という文章が、この章全体を総括しています。

【第4章】では、まず西洋人にわかりやすいように、茶室建築の特徴を西洋建築と比較しながら解説します。また茶室も茶の湯全体と同じく禅の教義を反映しているとし、茶室の特徴や茶室内での作法を禅との関連



で説き、四畳半という広さが維摩経から来ていることを説きます。また「茶室では、全体の効果を自分とのかかわりの中で完全なものにすることが、客めいめいの想像力にゆだねられている。」とし、「真の美は、不完全を心の中で完全なものにする人だけが発見することができる。」と主張します。

【第5章】には、「美術家は通信を伝える道を心得ていなければならないように、鑑賞者は通信を受けるに適切な態度を養わなければならない」、「われわれの心に訴えるものは、技量というより精神であり、技術というより人物である」、「芸術は宗教に近づいて人間をけだかくする」、「われわれは万有の中に自分の姿を見るに過ぎない。すな



■狩野芳崖「伏龍羅漢図」  
1885（明治18）年 掛幅装 福井県立美術館蔵

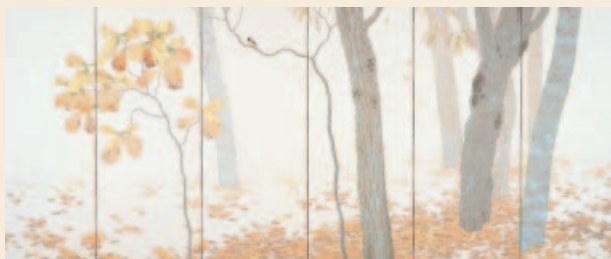
わちわれわれ特有の性質がわれわれの理解方を定めるのである」など、芸術鑑賞の極意ともいえる名言がちりばめられています。

【第6章】では、花と人間の関係を、日本、中国、西洋の例を挙げながら、詩的に、時にはややセンチメンタルに語り、次に茶道における花の扱いについて説明しています。「茶の宗匠は宗教的尊厳を持って花を見る」や「彼らは一枝一条もみだりに切らない」など茶道における花の扱いの特徴を挙げ、同時に華道の歴史についても解説し、華道の花より茶花に共感することを吐露しています。

【第7章】では、利休と秀吉の関係を中心に、茶の宗匠たちの日本文化への貢献を語っています。さらに、「宗匠たちはただの芸術家以上のものすなわち芸術そのものになると努めた。それは審美主義の禅であった」、「茶の宗匠たちが芸術界に及ぼした影響は偉大なものであったが、彼らが処世に及ぼした影響の大きさに比べれば取るに足らない」などの言葉で茶の宗匠たちの思想の本質を語っています。



■菱田春草「落葉」 1909（明治42）年 紙本着色 六曲一双屏風 福井県立美術館蔵



## 福井県立美術館 ボランティアの会

皆さんはどんな作品に感銘を受けていますか？

(沢山の作家と作品のなかで、ボランティアの会の皆さんが選んだのは、誰のどんな作品でしょうか？)

【氏名】岡崎 健

file 1.

【血液型】O型

【好きな作家(画家)】上村 松園

【好きな作品(絵)】見返り美人

【なぜ好きですか】

何となく振りむいた姿がいい。

【氏名】斉藤 つや子

file 3.

【血液型】AB型

【好きな作家(画家)】中島 潔

【好きな作品(絵)】待ちぼうけ

【なぜ好きですか】

全体がやさしい感じで心洗われいやされます。子供の頃の素直な気持ちを思い出させてくれるところがいいですね。絵を見る度にホッとします。

【氏名】小林 登紀子

file 2.

【血液型】A型

【好きな作家(画家)】アルフォンス・ミュシャ、  
藤田 嗣治

【好きな作品(絵)】百合の聖母、ボヘミアの唄、  
寝室の裸婦キキ

【なぜ好きですか】

ミュシャはポスターなどで有名ですが私は絵画のスラヴ叙事詩や前述の絵が好きで祖国への想いを幻想的でありながら現実に忠実に描いていることが伝わってくるように感じます。藤田嗣治は“乳白色”の肌の色とパリに住みながらも日本画の面相筆を使い洋画の中にも日本の心を取り入れ祖国を愛している思いを受け止められる。

【氏名】神内 魏

file 4.

【血液型】A型

【好きな作家(画家)】ピエール・ボナール

【好きな作品(絵)】田舎の食堂

【なぜ好きですか】

ナビ派の巨匠と言われるボナールの代表作である。豊かな色彩と考え抜かれた画面構成が、ありふれた田舎の暮らしを語りかけ、見る者の気持ちを温かく包込む、そして見るたびに新たな感動を呼び起こす素晴らしい作品である。

ボランティアの会の皆さんの作品です。



「響の詩」島田美智代



「牡丹」田嶋丈治



「祈」吉田幸子



「春」米倉ゆき子

### 〈近隣美術館・博物館スケジュール〉

#### 福井県立 歴史博物館

TEL 0776-22-4675

#### ガラスの芸術

—ルネ・ラリックとその時代—  
7月21日(金)～9月3日(日)

#### 福井県立一乗谷 朝倉氏遺跡資料館

TEL 0776-41-2301

#### 古文書が語る 朝倉氏の歴史

7月21日(金)～9月3日(日)

#### 福井県立 恐竜博物館

TEL 0779-88-0001

#### 恐竜以前

—エディアカラの不思議な生き物たち—  
7月14日(金)～10月9日(月・祝)

#### 福井市立 郷土歴史博物館

TEL 0776-21-0489

#### 越前松平家と大安禅寺

7月22日(土)～9月3日(日)

#### 福井市美術館

[アートラボふくい]

TEL 0776-33-2990

#### 風の画家 中島潔の世界展

7月22日(土)～8月16日(水)



島田雪湖(しまだせつこ)  
「月下孤狼図(げっかころうず)」

## 「アートのなかの生き物たち」

平成18年 **7/28(金)～8/31(木)**

絵や彫刻の題材はたくさんありますが、人間が生き物に寄せる関心は非常に高く、私たちはアートのなかにさまざまな形で見つけることができます。

それらを表現したいという欲求はある時ラスコーの洞窟の空駆ける動物たちとなり、生き物に寄せる親近感はある時『鳥獣戯画』の二足歩行の擬人化された動物たちを生み出しました。そのように古来からつぎることない興味の対象であった生き物たちをアートに表した作品を本展示は3部に構成して御紹介いたします。



狩野興以(かのうこうい)  
「韃靼人狩獵図屏風  
(だつたんじんしゆりようずびようぶ)」(部分)

### 移動美術館 小浜・敦賀展

福井県立美術館では、当館のコレクションを地域で身近に鑑賞していただくことができるよう、「移動美術館」を実施しています。今回の展覧会では、ピカソやミロ、郷土出身の三上誠などが描くさまざまな人間模様の作品や、昨年度に新しく収蔵した作品を展示します。

平成18年度 福井県立美術館移動美術館 小浜展1

## 「人間模様エトセトラ／ 平成17年度 新収蔵品紹介」

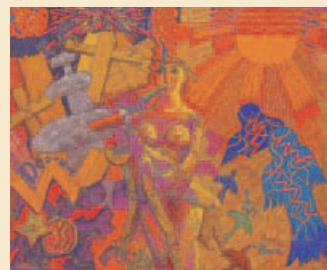
平成18年 **8/4(金)～8/15(火)** ※会期中無休  
午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

会場

福井県立若狭歴史民俗資料館  
小浜市遠敷2丁目104 TEL:0770(56)0525



米谷清和「夏がゆく」



網谷幸二「愛する者たちへ」

一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)  
高校生以下・70歳以上・障害者手帳等をお持ちの方は無料

平成18年度 福井県立美術館移動美術館 敦賀展

## 「人間模様エトセトラ／ 平成17年度 新収蔵品紹介」

平成18年 **9/9(土)～9/22(金)**  
休館日:9/11(月)、17(日)、18(月)  
午前9時～午後5時(入場は午後4時30分まで)

会場

プラザ萬象  
敦賀市東洋町1-1 TEL:0770(22)9711



レンブラント・ファン・レイン  
「レンブラントと妻サスキア」



大石可久也「こんぶとる人」

一般・大学生 100円(団体30名以上は2割引)  
高校生以下・70歳以上・障害者手帳等をお持ちの方は無料



# お知らせ

## <8月～9月の休館日について>

展示替え、館内メンテナンス等のため、  
9月11日(月)、25日(月)は、休館とさせていただきますのでご了承ください。

schedule

### 貸館情報

- |                                     |                                              |
|-------------------------------------|----------------------------------------------|
| 8/3～8/6 ● 第6回 創美の会洋画展               | 9/13～9/18 ● 第9回 フォトグループ・アイ写真展                |
| 8/9～8/13 ● 第55回 福井県児童・生徒<br>読書大会作品展 | 9/14～9/18 ● 第10回 青い扉パステル画展                   |
| 8/16～8/20 ● (社)福井県建築組合連合会会員美術展      | 9/15～9/18 ● 第42回 福井造形展                       |
| 8/23～8/27 ● キャンクラブ福井支部 第6回写真展       | 9/22～9/24 ● 第36回 若越書道会展「若越習字」<br>創刊700号発刊記念展 |
| 8/29～9/3 ● 金井信一展                    | 9/27～10/1 ● 杉本長雲生誕100年遺墨展                    |
| 8/31～9/3 ● 第21回 日本画爽展2006           | 9/27～10/1 ● 玲風会日本画展                          |
| 9/1～9/3 ● 第25回記念 愿泉書道展              | 9/29～10/1 ● 第5回 表装研究会作品展<br>“表具のかたち”         |
| 9/8～9/10 ● 日本墨書会 第30回記念選抜書道展        |                                              |
| 9/8～9/10 ● 第39回 福井県学生書道展            |                                              |
| 9/12～9/17 ● 第59回 示現会展巡回福井展          |                                              |

8/3～10/1

広報板

## 日本まんなか共和国

日本の東西文化の境界にある四県(岐阜、三重、滋賀、福井)が連携し、より効果的な文化活動を行うため、先進的な「日本まんなか共和国」の創造を目指しています。

### 滋賀県立近代美術館

大津市瀬田南大萱町1740-1 TEL:077-543-2111

#### イサム・ノグチ —世界とつながる彫刻—展 7月8日(土)～9月18日(月・祝)



この展覧会は、20世紀を生きた彫刻家イサム・ノグチの作品の展開を、「顔」、「神話・民族」、「コミュニティのために」、「太陽」という四つのキーワードから分類し、様々な素材による彫刻(金属彫刻、陶彫、石彫など)と模型、舞台セットなど72点の作品を通して、その活動の全貌をとらえようとするものです。

一般 1,000円(800円)/高大生 800円(600円)/小中生 600円(400円)

※( )内は、前売りおよび20名以上の団体料金

### 中ハシクシゲ展 ZEROs

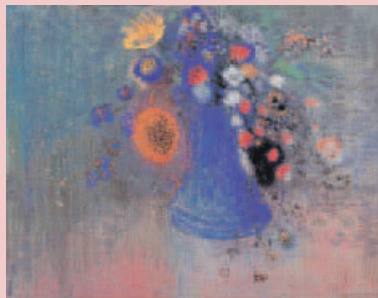
—連鎖する記憶—  
9月30日(土)～11月12日(日)

滋賀在住の現代美術作家、中ハシクシゲ(1955～)の近作展。戦争の記憶をテーマとする近年の二大プロジェクト「On the Day Project」「ZERO Project」の紹介に加え、滋賀県ゆかりの特攻機をモチーフにした新作「OHKA-43b」を公開共同制作。

### 岐阜県美術館

岐阜市宇佐4-1-22 TEL:058-271-1313

#### 愛知・三重・岐阜三県立美術館共同企画No.2 ルドンとその時代 7月8日(土)～8月20日(日)



ルドン 「青い花瓶の花々」 岐阜県美術館

三館共同企画の第2弾。岐阜県美術館のルドン、愛知県立美術館のクリムト、三重県立美術館のモネ、ルノワールなどフランス、ドイツ、オーストリアの近代西洋絵画、素描、版画、約200点が一堂に。

一般 800円(700円)/大学生 600円(500円)/高校生以下無料

※( )内は、20名以上の団体料金

### 生誕120年 前田青邨展

9月5日(火)～10月9日(月・祝)

日本画の巨匠・前田青邨(明治18年～昭和52年)は、現在の岐阜県中津川市の出身です。今回は青邨の生誕120年を記念して、初期から晩年に至る優品の数々を展示し、常に新しい挑戦を続けた青邨の、絵画探求の軌跡をたどります。

一般 1,000円(900円)/大学生 800円(700円)/高校生以下無料

※( )内は、20名以上の団体料金。前売りは200円引き

### 三重県立美術館

津市大谷町11 TEL:059-227-2100

#### 子ども美術館 Part7 「お気に入りをおさがせ!」 7月15日(土)～9月10日(日)



夏休み企画として、子どもたちが親しみをもてるような切り口で造形作品を紹介します。今回のテーマは「お気に入りをおさがせ!」。お気に入りの色、かたち、そしてお気に入りの肖像を探しているうちに、知らない自分の性格を発見することができるかもしれません。

一般 500円(400円)/高大生 400円(300円)/小中生無料

※( )内は、20名以上の団体割引及び前売料金

### 艶麗な線の画家 伊東深水の世界展

9月23日(土)～11月5日(日)

浮世絵の伝統を受け継ぎ、近代的な美人画を創造した伊東深水(1898～1972)の素描を、本画をまじえて名都美術館所蔵作品により紹介します。

一般 900円(700円)/高大生 700円(500円)/小中生 500円(300円)

※( )内は、20名以上の団体割引及び前売料金